

平成23年度 佐賀県立佐賀商業高等学校(全日制) 学校評価計画

| |
|--|
| 1 学校教育目標 本校では、学校生活のあらゆる機会を通して自分を研ぎ、商業人として必要な知識と技術を得させ、ビジネスに対する基本的なマナーや社会的モラルを身に付けさせるとともに、変化する経済社会に主体的に対応できる能力と態度を育む。 |
|--|

| |
|--|
| 2 学校経営ビジョン ① 「授業と部活動を真剣に」をモットーに文武両道の教育を推進する。 ② 商業人として必要な基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る。 ③ キャリア教育を推進し、職業観や勤労観を養い、地域産業や日本経済を担う人材を育成する。 ④ 社会人として当たり前のことを当たり前にできる、心豊かな人材を育成する。 |
|--|

| | |
|---|---|
| 3 本年度の重点目標 ① 自宅学習を習慣化させる。 ② 資格をしっかり取得させる。 ③ 部活動の活性化を図るとともに、部活動を通して挨拶やマナー・身だしなみ等が自然にできるようにする。 ④ 地域や地域産業等について、知る機会を設ける。(企業訪問、講師招聘) ⑤ 生命や自然、物を大切にすることを育む。 ⑥ ボランティア活動に積極的に参加する。 ⑦ 新型インフルエンザや感染症等を防ぐため、手洗い、うがい等を習慣化する。 学校スローガン: 夢は大きく、燃えろ佐商!! | 4 前年度の成果と課題 【成果】 進学・就職とも100%達成(国公立13人合格:4年連続二桁) 【課題】 (1)進路希望100%達成に向けた基礎学力の定着を図るための学習指導体制の整備 (2)一層の厳しさが予想される就職の第一希望の達成 (3)校外での佐商生としての意識とマナーの向上 (4)生徒の地域や社会への積極的な参加と、地域の理解を得るための工夫 |
|---|---|

5 総括表

| ① 自宅学習を習慣化させる。 | | | | |
|----------------|------------|----------------------|---|--|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ● 自宅学習 | 自宅学習の時間確保 | ・毎日最低1時間の自宅学習をさせるために、各教科や科目で課題や予習をさせる。 | ・各教科・科目で課題を出す。(提出期限の厳守と未提出者の指導) ・予習が必要な教科は予習の仕方や1週間のリズムなど、次の授業までにすべきことを周知させる。 ・専門科目では、検定試験に向けての演習・復習テストなど毎時の授業に向けて、勉強するような工夫をする。 |
| | ● 学力向上(1年) | 基礎学力の向上 | ・商業科目を含め、幅広い知識・技能を身につける。 | ・小テストなどを実施し、それに向けての準備を徹底させる。 |
| | ● 学力向上(2年) | 提出物の徹底 | ・課題の提出率を100%にする。 | ・担任と教科担当者、または部活顧問との連絡を密にし、提出物の指導を徹底する。 |
| | ● 学力向上(3年) | 就職・進学試験に対応した知識と学力の向上 | ・一般常識を身に付けさせる(就職試験対策)。 ・時事問題に興味・関心を抱かせる。 | ・毎日一枚「就職・進学」対策プリントを職員室前に置く。 ・新聞の切り抜きを掲示し意欲を喚起する。 |
| | ● 学力向上 | 読書習慣の育成 | ・読書により知識の習得、思考力・文章力の向上を図る。 | ・図書館利用を促進し、朝読書を充実させる。 |
| | ● 学力向上 | 基礎学力の向上 | ・朝の読書の時間を利用して、漢字・英単語テストを行う。 | ・週間行事予定で事前に周知し、家庭での学習を促す。 |
| | ● 学力向上 | 勉強と部活動の両立 | ・学習時間を確保し成績をアップさせる。 | ・原則として週1日の部活動の休養日を設定し、学習時間を増やす。 ・定期考査期間中は部単位での勉強会を実施するなどして、成績向上に努める。 |
| | ● 家庭学習 | 教科における生徒指導 | ・学ぶことの意義を理解させると共に、家庭での学習習慣を確立させる | ・教科の内容によっては、生徒の生き方と関わりのある教材や題材が扱われることも多く、生活と関連付けて指導することで生活の向上や改善をおこなう。 ・家庭学習の習慣化に結びつくような宿題の出し方を工夫することで学力向上、情緒の基盤づくりや気持ちの安定につなげる。 |

② 資格をしっかりと取得させる。

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|-----------------|----------------------|---|--|
| 教育活動 | ○上級資格・検定の取得(1年) | 資格の重要性の認識と積極的な挑戦 | ・資格の重要性や目的を分からせ、果敢に挑戦する気持ちを養わせる。 ・授業で取得できる資格をすべて取得させる。 | ・授業担当者や担任による個別指導を推進する。 |
| | ○上級資格・検定の取得(2年) | 資格取得に対する積極的な姿勢の育成と挑戦 | ・1年次に取れなかった資格にチャレンジし、次の級への意欲を高める。 | ・個人差はあるが、全員がワンランク上の資格・検定に挑戦しようという姿勢を持つことができるように、個々に応じた演習を行い目標に近づくために努力する達成感を持たせる。 |
| | ○上級資格・検定の取得(3年) | 自己の進路先に応じた資格の取得促進 | ・進学の推薦基準や就職先で必要とされる資格を意識させ、その取得に向けて努力、挑戦させる。 | ・各担当者により意欲喚起を図る。 ・担任・進路指導部による個人指導を促進する。 |
| | ○高度資格の取得 | 卒業までの全商1級3種目以上の資格取得 | 【商業科】 ・1年生の全商簿記検定2級合格率95%以上を目指す。 ・1年生の全商情報処理検定(ビジネス部門)2級合格率90%以上を目指す。 ・卒業までに全商簿記検定1級を取得させる。 ・卒業までに全商情報処理検定(ビジネス部門)1級を取得させる。 ・卒業までに全商電卓検定1級・及び全商ワープロ検定1級を取得させる。 【国際経済科】 ・卒業までに実用英語検定準2級または2級を取得させる。 ・卒業までに全商英語検定1級を取得させる。 ・卒業までに全商簿記検定・全商情報処理検定(ビジネス部門)及び全商ワープロ検定1級を取得させる。 【情報処理科】 ・卒業までに全商情報処理検定(ビジネス・プログラミング部門)1級を取得させる。 ・卒業までに全商簿記検定1級を取得させる。 ・卒業までに全商電卓検定1級・及び全商ワープロ検定1級を取得させる。 | ・理解度を見るための確認小テストを実施し、到達していない生徒には、補講を実施する。 ・高度な資格を取得させることで、進学に生かした指導体制を確立する。 ・外部より指導者を招聘しより高度な資格取得の指導を行う。 ・各種検定前の強化指導を図る。(部活動顧問との連携) |

③ 部活動の活性化を図るとともに、部活動を通して挨拶やマナー・身だしなみ等が自然にできるようにする。

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|--------------|--------------------|---|---|
| 教育活動 | ○部活動の活性化(1年) | 全員の部活動への加入 | ・未入部生徒への声かけ | ・部活動で何を学び、それが近い将来どのように進路先から評価されるのかを、担任を中心に喚起し続ける。 |
| | ○部活動の活性化(2年) | 部活動を中途退部した生徒への声かけ | ・1年以内で部活動をやめた生徒に他の部への再入部を呼びかける。 | ・部活動に入っていない生徒は、生活面や学習面でも伸び悩むことが多いため、担任・顧問・保護者などと連携して辞めない・辞めさせない指導をする。 |
| | ○部活動の活性化(3年) | 高い成果の追求 | ・「最後の試合・大会」を意識し、伝統校にふさわしい就職や進学に繋がる成績を残す。 | ・部顧問と担任が緊密に連携し、心身両面からのバックアップを継続する。 |
| | ○部活動の活性化 | 部活動加入率の向上 | ・部活動加入率95%以上を目指す。 | ・体験入部期間を設定する。 ・部顧問との連携をとり、部員の活動を応援するとともに、未入部者への声かけを行い、部活動加入率アップを図る。 ・退部届の活用で退部者に対する追指導を行う。 |
| | ○部活動の活性化 | 大会成績の向上 | ・運動部は高校総体で優勝旗6本獲得を目指し、文化部は大会やコンクールの入賞数を増やす。 | ・全校集会や主将部長会議で強い佐商の意識付けをしたり、大会やコンクールへの出場や応援を増やす。 |
| | ○部活動でのマナー教育 | 挨拶やマナー・身だしなみ | ・学期に1回以上部長会議を行う。 | ・部員が挨拶やマナー・身だしなみ等に対する意識を高めきちんとできるようにし、また、リーダーシップを発揮できるよう育てていく。 |
| | ○部活動と生徒指導 | 自発的・自治的能力の育成 | ・部活動内で生徒の自発性・自主性・社会性を促進し、集団としての自治的能力を育成する。 | ・集団としてのまとまりや、同じ目標を持つ仲間同士の意見の相違、人間関係のもつれのなかで、話し合いや関わりを深めることでより深い相互の関係を理解したり、協力により望ましい人間関係を築く態度を育成する。 |

| ④ 地域や地域産業等について、知る機会を設ける。(企業訪問、講師招聘) | | | | |
|---------------------------------------|---------------|--------------------|--|--|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ○キャリア教育の推進 | 進路意識の啓発 | ・進路啓発のための各種研修を校内外で実施し、事後のアンケート調査で70%以上の満足度を目指す。 | ・地域の企業より講師を招き、進路希望別に講話及び模擬面接を年2回実施する。 ・2年生で職場体験を行い、地元企業を取材し、報告書にまとめる。 |
| | ○起業家教育の推進 | 起業家教育の定着 | ・本校で実施しているインターネットショッピングモール「さが学美舎」や起業家教育を通して、地域や地域産業との連携を深め、起業家精神の向上を目指す。 | ・「さが学美舎」や起業家教育の「きゃーもん祭」での活動を通じ、地域産業と連携した、商品の販売活動や新商品開発を行う。 |
| ⑤ 生命や自然、物を大切にすることを育む。 | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ○保健 | 定期健康診断の事後指導の徹底 | ・健康診断後の治療率の向上を図る。(歯科・視力) | ・担任、部活動顧問と連携し、保護者に確実に状況報告を行い、治療への理解と協力を得る。 |
| | ○安全管理 | 施設・設備の安全管理の徹底 | ・校内での怪我や突発的な事故をなくす。 | ・学校安全計画に基づき、校内の施設設備の安全点検を全職員で行う。その後再点検を係りで行い、安全管理を徹底させる。 |
| | ○物を大切にすることを育成 | 部室管理の徹底 | ・学期に1回、部室検査を行う。 | ・部室の清掃状況や備品の使用状態を点検する。 |
| | ○生徒指導 | 公共物利用の現状 | ・校内のゴミや公共物の破損がないか、定期的に巡視を行い調査する。 | ・状況に応じて全校集会、学年集会で現状を伝え、生活改善につなげる。注意するだけの指導にとどまらず、善行については表彰等も実施する。 |
| ⑥ ボランティア活動に積極的に参加する。 | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ●心の教育 | ボランティア活動の推進 | ・全校生徒が年1回以上のボランティア活動に参加する。 | ・クラスごとに地域を割り当て、空き缶などのゴミの回収活動を学年別を実施する。 |
| | ●心の教育 | ボランティア活動の推進 | ・部活動単位でのボランティア活動を実施する。 | ・部活動単位でのボランティア活動について、自分たちができることを考えていく。 |
| | ○安全教育と生徒指導 | ボランティア活動の推進 | ・自らの安全確保はもとより、友人や家族、地域社会の人々の安全等にも貢献する大切さへの理解を深める。 | ・心肺蘇生法等の応急手当の技能を高め、適切な手当が実践できたり、安全で安心な社会作りへの理解を深める。 ・地域の安全に関する活動やボランティア活動へ積極的に参加する。 |
| ⑦ 新型インフルエンザや感染症等を防ぐため、手洗い、うがい等を習慣化する。 | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ●健康・体づくり | 感染症予防および拡大の抑制 | ・出席停止者の数を昨年より増加させない。 ・学級閉鎖がないようにする。 ・生徒の健康被害を最小限にとどめる。 | ・予防接種の推進。 ・保健便り等での広報活動を充実させ感染症予防に対する意識の啓蒙を図る。また、インフルエンザに関する知識や情報を正確に伝える。 |
| | ●健康・体づくり | ヘルスプロモーションの促進 | ・自分の健康課題に気づき、意識の改善、実践のできる生徒を育てる。 | ・掲示板・保健講話などを通して心身の健康づくりや安全衛生に対する意識を高める。 ・心身の健康についての知識や意識向上を図るため学校医の講話を実施する。 |
| | ○生徒会活動 | 生徒の委員会活動の充実 | ・月1回の保健委員会の開催 ・日常の保健係の活動を充実させる。 | ・学級での手洗い・うがいの喚起活動を取り入れる。 ・流行時の校内放送や情報の提供を行う。 ・文化祭での手洗い実験などを行う。 |

| 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 | | | | |
|----------------------|-------------|---|---|--|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ○進路指導 | 希望進路の達成 | ・就職:生徒の希望職種・地域への内定率100%を目指す。 ・進学:国公立大・難関私大にそれぞれ2桁の合格者を目指す。 | ・地元企業を中心に訪問企業数を増やし、新規求人開拓を行う。 ・1年次より計画的なキャリア教育を行う。 ・補習授業や小論文・面接指導等の受験指導体制強化を図る。 |
| | ○人権・同和教育 | 人権・同和教育の推進 | ・あらゆる差別を許さない精神と態度を育成する。 | ・各学期に1回、人権・同和教育の研修会を実施する。 ・各種人権・同和教育研修会に積極的に参加し、職員の資質向上に努める。 |
| 学校運営 | ●学力向上 | 授業時間の確保 | ・出張等による自習時間を年間30時間以内に努める。 | ・出張等に関する職員間の連絡を密にして、振替等を確実に実施する。 |
| | ○情報管理 | ・個人情報保護と情報漏洩防止 ・学校ホームページの内容充実と定期的更新 | ・情報の収集と利用および管理について、職員および生徒の意識を向上させる。 ・学校ホームページの定期更新を月2回以上行い、見やすく分かりやすくタイムリーな情報発信を行う。 | ・情報セキュリティチェックを毎月行い、個人ごとのチェックを行う。 ・職員朝礼などを利用して、重要情報の取り扱いについて呼びかけを行う。 ・各部署と連携して情報収集に努め、PR活動に生かす。 |
| | ○特別活動 | 生徒の個性や能力の引き出し | ・参加意識の高い学校行事、や主体的な活動をする生徒会にする。 | ・企画の段階から生徒の意見を聞く。 ・発言や発表の機会を増やす。 ・司会やお礼の言葉、浄書などをできるだけ生徒に任せる。 ・準備に時間をかけ満足度の高い佐商祭(文化祭・体育祭)を実施する。 ・各種委員会活動を月1回行う。 |
| | ○学校行事 | 学校の重点目標に則した学校行事の実施 | ・学校行事を精選し授業時間を確保する。 | ・各課との連携を強化し、内容の充実と精選により、授業時間を確保する。 |
| | ○後援会活動 | ・後援会総会への保護者の参加 ・学年別保護者会の実施 | ・後援会総会への参加率を70%以上にする。 ・学年別保護者会の参加率を50%以上にする。 | ・担任の授業の参観や保護者向け進路ガイダンスを実施する。 ・保護者が参加しやすいように夕方7時30分から実施し保護者からの学校教育活動に関するアンケートも実施する。 |
| | ○学校経営方針 | 本年度重点目標の周知 | ・教職員・生徒・保護者に周知する。 ・周知度を90%以上にする。 | ・職員会議や全校集会等で周知する。 ・学校便りを通じ、また、後援会総会、学級懇談会等の折りに周知を図り、具体的取組みを説明する。 |
| | ○教職員の資質向上 | 研究授業(公開授業)の推進 | ・教員一人当たり、年最低1回以上研究(公開)授業を実施する。 | ・指導方法の工夫・改善のために、各教科での研修や研究の充実を図る。 ・何時でも公開授業ができる体制づくりを実現する。 |
| | | 観点別評価の研究推進 | ・教科や学科で観点別評価や学力把握に関する研究を行う。 | ・観点別評価や学力把握に関する研究を行い、その成果を授業改善に具現化する。 |
| | | 社会の変化に対応した教育の実践 | ・年1回は研修を受講する。 | ・県教育委員会や教育センター研修等を活用し、教育環境の変化に的確に対応できる教員の育成を図る。 |
| | ○開かれた学校づくり | 一日体験入学の実施 | ・中学生の目標参加者数を昨年並み(700人程度)とする。 | ・中学校への学校説明(DVD・生徒代表発表)内容の充実を図る。(学校の特長、2学科の特長を充実させる) ・制服、各部紹介パネル展示等を実施する。 |
| 地域との連携 | | ・「高校生Teacher講座」の3つの講座を担当する。 | ・夏休みに実施される神野公民館主催の「高校生Teacher講座」に参加し小学生への指導とおおして地域との連携を深める。 | |
| 保護者や地域との連携 | | ・保護者や地域住民を対象に、年3回以上公開授業を実施する。 | ・後援会総会時に公開授業を実施する。 ・学校開放日に全ての授業・部活動等を公開する。 | |
| ○学校の個性化 | 特色ある教育課程の編成 | ・学科の特長を生かしながら新学習指導要領に向けた特色ある教育課程の編成に取り組む。 | ・生徒の興味関心や進路希望等に対応したコースを設け、教育目標や年間計画を明確にする。 ・アンケート等を通して実態を把握する。 ・新学習指導要領の内容を検討する。 | |

●は共通評価項目、○は独自評価項目